

# 【平成 29 年 1 月の経済報告】

平成 29 年 1 月 20 日

本稿は、マイクロマシン／MEMS 分野を取り巻く経済・政策動向のトピックをいろいろな観点からとらえて発信しています。初冬、平成 29 年 1 月の経済報告をお届けします。

## 1. 全般動向

11 月の C I（速報値・平成 22(2010)年=100）は、先行指数：102.7、一致指数：115.1、遅行指数：112.9 となった（注）。

先行指数は、前月と比較して 1.9 ポイント上昇し、2 か月連続の上昇となった。3 か月後方移動平均は 0.74 ポイント上昇し、2 か月連続の上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.39 ポイント上昇し、4 か月連続の上昇となった。一致指数は、前月と比較して 1.6 ポイント上昇し、3 か月連続の上昇となった。3 か月後方移動平均は 1.13 ポイント上昇し、4 か月連続の上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.33 ポイント上昇し、3 か月連続の上昇となった。遅行指数は、前月と比較して 0.3 ポイント下降し、2 か月連続の下降となった。3 か月後方移動平均は 0.07 ポイント下降し、4 か月ぶりの下降となった。7 か月後方移動平均は 0.25 ポイント下降し、2 か月連続の下降となった。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

[http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data\\_list/sokuhou/files/2016/toukei\\_2016.html](http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/sokuhou/files/2016/toukei_2016.html)

## 2. 各経済指標

### ◎ 月例報告（内閣府）（平成 28 年 12 月 21 日公表）

日本経済の基調判断

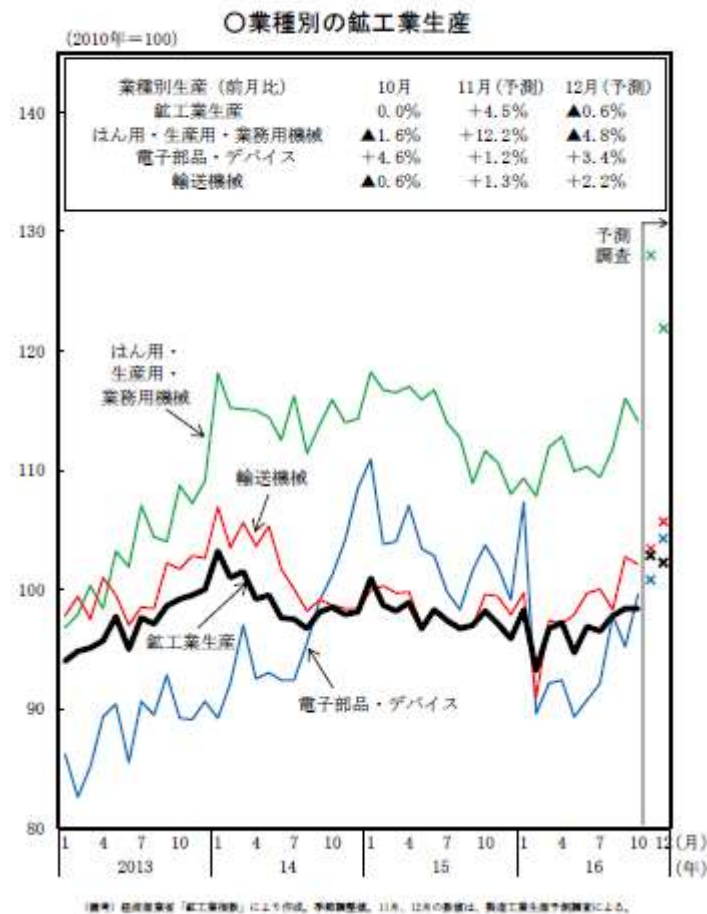
（現状）

- ・景気は、一部に改善の遅れもみられるが、穏やかな回復基調が続いている

（先行き）

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、穏やかな回復に向かうことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

## 生産：持ち直している



詳細は以下のHPをご参照下さい。

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/2016/12kaigi.pdf>

## ◎ 設備投資

### 平成 28 年 11 月実績：機械受注統計調査報告

(平成 29 年 1 月 16 日 内閣府 経済社会総合研究所)

機械受注総額の動向をみると、2016(平成 28)年 10 月前月比 3.3%増の後、11 月は同 20.6%増の 2 兆 5,915 億円となった。

需要者別にみると、民需は前月比 11.4%増の 1 兆 963 億円、官公需は同 21.6%増の 3,313 億円、外需は同 37.3%増の 1 兆 983 億円、代理店は同 7.6%増の 1,196 億円となった。

民間設備投資の先行指標である「船舶・電力を除く民需」の動向をみると、2016(平成 28)年 10 月前月比 4.1%増の後、11 月は同 5.1%減の 8,337 億円となった。このうち、製造業は同 9.8%増の 3,635 億円、非製造業(除く船舶・電力)は同 9.4%減の 4,834 億円となった。

## 対前月(期)比

(単位:%)

需要者 期・月	2015年 (平成27年) 10-12月 (実績)	2016年 (平成28年) 1-3月 (実績)	4-6月 (実績)	7-9月 (実績)	10-12月 (見通し)	2016年 (平成28年) 8月 (実績)	9月 (実績)	10月 (実績)	11月 (実績)
受注総額	4.6	-4.4	-6.1	-3.0	-1.3	-4.0	0.9	3.3	20.6
民需	6.3	12.4	-17.1	2.1	0.3	-0.5	-0.7	1.2	11.4
〃(除船電)	2.6	6.7	-9.2	7.3	-5.9	-2.2	-3.3	4.1	-5.1
製造業	-3.0	13.7	-13.4	4.5	-3.8	-4.0	-5.0	-1.4	9.8
非製造業(除船電)	5.6	3.5	-5.0	8.2	-6.2	-1.9	-0.9	4.6	-9.4
官公需	-11.1	20.0	-13.3	11.0	-16.7	-15.7	-10.3	23.5	21.6
外需	9.1	-26.6	3.7	-6.0	2.6	6.8	1.4	1.9	37.3
代理店	3.4	6.3	-8.5	9.1	-8.0	-3.3	5.6	-8.4	7.6

(備考) 季節調整値による。季節調整系列は個別に季節調整を行っているため、需要者別内訳の合計は全体の季節調整値とは一致しない。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/1611juchu.html>

### ◎鋳工業指数調査

【最新プレス情報 平成 28 年 11 分】 (平成 29 年 1 月 17 日発表)

鋳工業指数(生産・出荷・在庫、生産能力・稼働率、生産予測指数)

～製造業の動きから見る日本の景気～

<概況>

製造工業稼働率指数は、101.0 で前月比 3.0%の上昇であった。

製造工業生産能力指数は、94.5 で前月比 0.0%の横ばいであった。

製造工業生産能力・稼働率指数、平成22年（2010年）=100

	季節調整済指数		原指数		
	指数	前月比	指数	前月比	前年同月比
稼働率	101.0	3.0	101.5	3.8	4.4
生産能力			94.5	0.0	-0.6

鉱工業指数、平成22年（2010年）=100

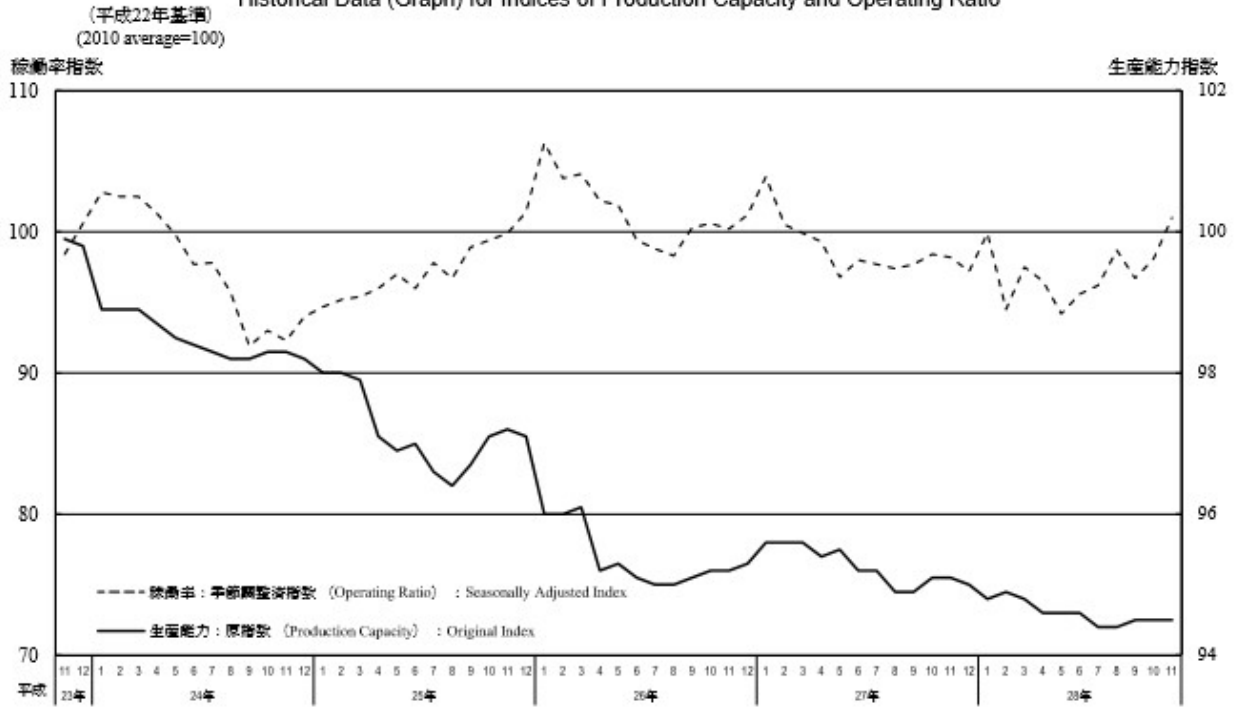
	季節調整済指数		原指数	
	指数	前月比	指数	前年同月比
生産 (速報値)	99.9 (99.9)	1.5 (1.5)	101.9 (101.9)	4.6 (4.6)
出荷 (速報値)	99.3 (99.2)	1.0 (0.9)	100.8 (100.7)	5.1 (5.0)
在庫 (速報値)	106.9 (107.0)	-1.6 (-1.5)	109.9 (110.0)	-4.8 (-4.8)
在庫率 (速報値)	107.8 (107.9)	-5.6 (-5.5)	109.4 (109.6)	-6.7 (-6.6)

<電子部品・デバイス工業、電気機械工業>

(1) 11月の製造工業稼働率指数は、101.0で前月比3.0%の上昇であった。  
業種別にみると、電子部品・デバイス工業同3.2%、輸送機械工業同3.1%、はん用・生産用・業務用機械工業同3.7%、化学工業同3.5%が上昇し、その他工業同▲1.6%、パルプ・紙・紙加工品工業同▲1.2%等が低下した。

(2) 11月の製造工業生産能力指数は、94.5で前月比0.0%の横ばいであった。  
業種別にみると、電子部品・デバイス工業同0.1%が上昇し、電気機械工業同0.0%、石油・石炭製品工業同0.0%、鉄鋼業同0.0%等が横ばい、はん用・生産用・業務用機械工業同▲0.3%、非鉄金属工業同▲0.1%等が低下した。

製造工業生産能力指数・稼働率指数の推移(グラフ)  
 Historical Data (Graph) for Indices of Production Capacity and Operating Ratio



製造工業生産能力指数・稼働率指数の時系列表  
 Historical Data for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

平成22年 = 100  
 index, 2010 = 100

年 月	稼働率 Operating Ratio				生産能力(末) Production Capacity			Year and Month
	季節調整済指数 Seasonally Adjusted Index		原指数 Original Index		原指数 Original Index			
	前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)		前年(同月期)比 %Change From Previous Year		前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)	前年(同月期)比 %Change From Previous Year		
平成 25 年			97.3	▲ 0.5	97.1		▲ 1.1	C.Y. 2013
26			101.3	4.1	95.3		▲ 1.9	C.Y. 2014
27			98.7	▲ 2.6	95.0		▲ 0.3	C.Y. 2015
平成 25 年度			100.0	4.8	96.1		▲ 1.8	F.Y. 2013
26			100.6	0.6	95.6		▲ 0.5	F.Y. 2014
27			98.0	▲ 2.6	94.8		▲ 0.8	F.Y. 2015
平成27 年 Ⅲ期	97.6	▲ 0.4	98.7	▲ 2.2	94.9	▲ 0.3	▲ 0.2	Q3 2015
Ⅳ期	97.9	0.3	97.8	▲ 2.2	95.0	0.1	▲ 0.3	Q4
平成28 年 Ⅰ期	97.3	▲ 0.6	98.3	▲ 2.9	94.8	▲ 0.2	▲ 0.8	Q1 2016
Ⅱ期	95.4	▲ 2.0	94.6	▲ 2.7	94.6	▲ 0.2	▲ 0.6	Q2
Ⅲ期	97.2	1.9	98.1	▲ 0.6	94.5	▲ 0.1	▲ 0.4	Q3
平成27 年 9月	97.7	0.3	101.8	▲ 2.7	94.9	0.0	▲ 0.2	Sep. 2015
10月	98.4	0.7	99.7	▲ 3.2	95.1	0.2	▲ 0.1	Oct.
11月	98.2	▲ 0.2	97.2	0.0	95.1	0.0	▲ 0.1	Nov.
12月	97.2	▲ 1.0	96.4	▲ 3.3	95.0	▲ 0.1	▲ 0.3	Dec.
平成28 年 1月	99.9	2.8	93.0	▲ 5.3	94.8	▲ 0.2	▲ 0.8	Jan. 2016
2月	94.5	▲ 5.4	95.9	▲ 2.3	94.9	0.1	▲ 0.7	Feb.
3月	97.5	3.2	106.1	▲ 0.9	94.8	▲ 0.1	▲ 0.8	Mar.
4月	96.5	▲ 1.0	92.8	▲ 4.3	94.6	▲ 0.2	▲ 0.8	Apr.
5月	94.2	▲ 2.4	91.0	▲ 1.2	94.6	0.0	▲ 0.9	May
6月	95.6	1.5	100.0	▲ 2.4	94.6	0.0	▲ 0.6	Jun.
7月	96.2	0.6	100.4	▲ 4.6	94.4	▲ 0.2	▲ 0.8	Jul.
8月	98.7	2.6	93.2	4.5	94.4	0.0	▲ 0.5	Aug.
9月	96.7	▲ 2.0	100.8	▲ 1.0	94.5	0.1	▲ 0.4	Sep.
10月	98.1	1.4	97.8	▲ 1.9	94.5	0.0	▲ 0.6	Oct.
11月	101.0	3.0	101.5	4.4	94.5	0.0	▲ 0.6	Nov.

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

[http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2010\\_201611nj.pdf](http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2010_201611nj.pdf)

## 2. その他の動向

### 1) 電子部品グローバル出荷統計

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) は、電子部品グローバル出荷統計の最新版月別出荷金額 (2016. 12. 27 発表) を公表しました。

・ 2016 年 10 月グローバル出荷額は 3,246 億円、前年比 86.9% となり、前年比マイナスとなった。

・ 品目別出荷は受動部品 (前年比 88.7% 1,085 億円)、接続部品 (同 96.9% 869 億円)、変換部品 (同 95.1% 754 億円)、その他の電子部品 (同 65.5% 536 億円) となった。

・ 地域別出荷は、日本 (前年比 101.7% 817 億円)、米州 (同 78.4% 300 億円)、欧州 (同 86.5% 294 億円)、中国 (同 77.8% 1142 億円)、アジア・その他 (同 93.9% 696 億円) となった。

### 【月別出荷金額】

電子部品出荷額 (億円)	2016年度						2016年度累計		
	8月		9月		10月		4月-10月		
	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	
世界計	3,207	94	3,483	91	3,246	86	22,020	90	
(日本)	718	97	857	104	817	101	5,211	94	
品目別	受動部品	1,139	103	1,180	94	1,085	88	7,602	93
	コンデンサ	769	103	791	93	736	89	5,128	94
	抵抗器	116	99	120	98	111	91	807	94
	トランス	35	112	38	110	34	95	265	103
	インダクタ	215	101	226	90	199	82	1,375	90
	その他	3	95	3	113	3	111	24	92
	接続部品	855	94	945	99	869	96	5,842	92
	スイッチ	361	88	407	93	375	89	2,598	90
	コネクタ	489	99	532	105	489	103	3,211	93
	その他	4	101	5	115	5	110	33	99
	変換部品	664	89	742	96	754	95	4,722	89
	音響部品	133	72	181	93	193	94	1,047	79
	センサ	331	98	333	95	332	91	2,289	95
	アクチュエータ	199	89	227	100	228	102	1,386	89
	その他の電子部品	547	83	614	74	536	65	3,852	84
	電源部品	203	84	225	88	197	84	1,400	84
高周波部品	344	83	389	68	338	58	2,451	84	

### 【地域別出荷金額】



地域別出荷金額（億円）	2016年度						2016年度累計	
	8月		9月		10月		4月-10月	
	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)
グローバル	3,207	94	3,483	91	3,246	86	22,020	90
日本	718	97	857	104	817	101	5,211	94
米州	316	97	311	95	300	78	2,116	91
欧州	280	98	307	92	294	86	2,074	97
中国	1,191	90	1,268	81	1,142	77	7,955	85
アジア他	703	93	741	97	696	93	4,683	93

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

[http://home.jeita.or.jp/ecb/information/info\\_stati.html](http://home.jeita.or.jp/ecb/information/info_stati.html)

## 2) MEMS 関連最新調査

米国調査会社マインドコマース(Mind Commerce)の調査レポート「MEMS(微小電気機械システム) 2016 - 2021 年 : コンポーネント、製品、用途、垂直市場」は、MEMS のエコシステム、企業、製品、サービスなどの市場を査定している。2016-2021 年の MEMS 市場の機能、機器、用途、垂直市場を予測し、世界市場と地域毎に提供している。

内容は、

- \* 内蔵システムと MEMS
- \* MEMS 市場促進要因
- \* 企業分析
- \* MEMS 市場予測

となっています。

サマリーは以下の HP をご参照下さい。

<http://www.dri.co.jp/auto/report/mindc/mcmems.html>

以上